



11月の園だより

H26.11.1発行 同仁東保育園

高く澄んだ空に涼やかな秋の風。「いってきーす!!」と手を振る子ども達。遠足や散歩を通して、たくさん自然に触れ、十分に遊びを満喫して子ども達は、山盛りのお餅と一緒に木の香りを運んで来てくれました。満足気な子ども達の笑顔が、何よりのおみやげです。

さて、園の運動会は、秋晴れのもと、無事に終了することが出来たので、保護者の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

家族はもちろん、大勢の人達の前で頑張る姿を見せ、一人ひとりの成長が輝いていました。子ども達の胸に何か芽生えたものがあるように思います。

今はまさに実りの秋!! この成長の芽をふくらませながら、友達との関わりを深めていきたいと思えます。

園長のひとりごと



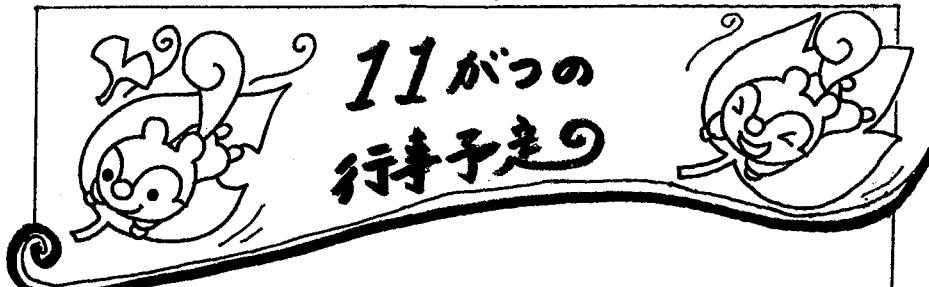
先月の運動会ではお忙しい中を多数の参加を頂きありがとうございました。沢山のプログラムがありましたが、年長の子どもたちが最も気が入っていたのはクラス対抗リレーでした。

当日はみどり組さんが優勝しましたが、実は練習では何度やってもビリでした。私自身はそんな風景を職員室で見ながら、専門誌に掲載されていたある一文を思い浮かべていました。

「運動会が近づいて、五歳時が園庭でリレーをやっていた。一人の男児が帽子を捨て「もうやめた」とクラスに戻っていく。その子は足が速いが、彼のチームは何度やっても勝てなかったらしい。よほどくやしかったのであろう。たかがリレーである。しかしそんな些細なことに、自分をさらけだして悔しがれる時代はもう二度とこない。仲間が懸命に走ったことは彼にもわかっている。だから、悔しさをどう表現しているのかわからない。自分をおさえきれないのだが、仲間に対しては自分をおさえようとしている。

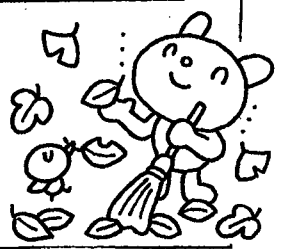
こういうことを繰り返しながら彼は、他者の気持ちと向き合い、自分の気持ちに気づいていくにちがいない。」

長年、「保育の質の向上」と言われ続けて久しいのですが「保育の質」って一言で片付けられないと思います。マニュアルも事故防止も重要ですが、一番重要なのは、保育者が常に子どもの気持ちを考え、寄り添えるような、そんな保育が出来たらいいなと思います。私自身も色々と勉強させてもらった運動会でした。



11がつの行事予定

- 4日(火) ちびこ広場(1天)
- 6日(木) おにぎり遠足(ちゅうりっぷ) <森林公園>
- 7日(金) リトミック
- 8日(土) 高萩市民音楽祭
- 10日(月) 身体検査, そとばん教室
- 11日(火) ↓, 親子遠足(あか・あお・みどり)
- ちびこ広場(2天), パネルの日
- 13日(木) ゆうゆう交流, 起祥
- 14日(金) 避難訓練(高萩小)
- 17日(月) サッカー教室, そとばん教室
- 18日(火) ちびこ広場(3,4天)
- 19日(水) レインボーお話し会
- 20日(木) 高萩市作品展(~24日)
- 21日(金) 避難訓練
- 25日(火) きょう虫検査, 東幼社園との交流
- 27日(木) 起祥
- 28日(金) 体育指導



◎市民音楽祭について
 今年もあか・あお・みどりぐみの56名の園児が市民音楽祭に参加します!! 今年度は、例年より早い11月8日(土)に開催されることになりました。詳細については、後日改めておたより又はポスターを掲示してお知らせします。当園の鼓笛隊を始め、様々な演奏演技をぜひご家庭で見たいと思います!!

◎高萩市子ども作品展について
 11月20日(木)~24日(月)の5日間、高萩市民体育館にて子ども作品展が開催されます!! 今年もあか・あお・みどりぐみの年長児(5名)が出展致しますので、ご家族お友達に見にお出かけ下さい!!

「人の役に立つ喜びを教えるためにできること」

電車の中ではお年寄りや体の不自由な人に席を譲ろうと教えます。ところがさりげなく席を譲る術を知らず、気になってはいても席を立てないという人も多いのではないのでしょうか。

子どもに何かをさせようとする時、いろいろな動機付けの方法があります。脅かしてやらせること、こうするべきであるという価値観を押しつけて従わせるという手もあります。人並みでいたいという欲求に訴えることもできるし、ご褒美で釣る方法や格好良さに訴えることもできます。ところが問題は、これらのほとんどに副作用があることです。脅かすことが多いと親子関係がいつになりにくくなります。べき論を押しつけると、子どもからいきいきとした活力を奪うことになり、人並みでいたいと思ふあまり行動する勇気を失い、ご褒美や格好良さに釣ると見返りが無い時にはやらなくなってしまうのです。

その中で唯一副作用のないのが、人の役に立つ喜びから行動を起こすことです。怒られるから、ご褒美がもらえるから、かっこいいとか、ほとんどが自分のための行動であるのに対して、人の役に立つ喜びを知っている人は、人のために行動を起こします。それが動機付けになっているのです。

では、どんなふうに子ども達に伝えたいのでしょうか。まず子どもに出来ることはどんどん手伝ってもらうことです。そしてその後は「誉める」の代わりに「感謝」します。「誉める」ことはそこに評価があることと、おだてに乗せてやらせようという戦略は、人の役に立つ喜びを教えられるからです。「ありがとう」「とても助かった」と子どもの協力がどれだけ貢献してくれたかを伝えます。「嬉しい」と喜びを伝えるのもいいでしょう。素直な感謝や喜びの表現は子どもにまっすぐに伝わり、妙な副作用を起こしません。自分にとって大きな存在の親が自分に感謝している姿を見て、親の役に立つことを喜びと感ずるようになります。そしてその感情が墓の人達にも向けられていくのです。人から誉めてもらうより、もっと大きな喜びをもたらしてくれる確かなものを、子ども達の中に育てたいものですね。

< ハートフルコミュニケーション HPより
<http://www.heartfulcommunication.com> >

